

スロヴァキア を知るために

ブラティスラヴァ世界絵本原画展
のための
ブックリスト

さいたま市図書館

世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展

今夏、うらわ美術館で「世界の絵本がやってきた - ブラティスラヴァ世界絵本原画展」が開催されます。それにあわせてさいたま市図書館では、ブラティスラヴァを首都とするスロヴァキア共和国に関する資料をリストとしてまとめることにいたしました。このリストが、今回の展覧会をご覧になるうえでより広く深い鑑賞の手助けとなることを、そして、美術館にお越しの方は図書館へ、図書館にお越しの方は美術館へ、足をはこぶ一助となることを願ってやみません。

さいたま市図書館

目次	スロヴァキアとはいかなる国か	2
	スロヴァキアの人と風景	3
	スロヴァキアの20世紀	5
	スロヴァキアと音楽	6
	スロヴァキアと降矢なな	7
	スロヴァキアと文学	8
	図書館でのおはなし会のご案内	10

- * 掲載した資料はさいたま市図書館所蔵のものです。
- * 本リストの資料の情報は、書名、著者・画家、出版社、出版年の順で記しています。
- * 資料が貸出中または最寄りの図書館に所蔵がない場合は、予約・取り寄せができます。図書館の職員にお申し出ください。
- * 当リストで取り上げた作家のうち、展覧会で関連作品(文・原作、原画など)が展覧されているものには「展覧会に出品されています！」として、タイトルおよび当展カタログに準じた作家番号 - 作品番号 - 当該絵本頁を付けました。

スロヴァキアとは いかなる国か

ブラティスラヴァを首都とするスロヴァキア共和国。かつてはひとつの国だったチェコ共和国とくらべても、日本人にはあまり知られていない国かもしれません。「スロヴァキアとはいかなる国か」といえば...

人口 537万9千人(2001年)

国土面積 49,036 平方キロメートル(日本の約8分の1)

人種 85.6%がスロヴァキア人、10.8%がハンガリア人、残りの3.6%がロマ(ジプシー)、チェコ人、ルテニア人、ウクライナ人、ドイツ人

宗教 60.4%がカトリック、ほか福音教会、ギリシャ正教、ロシア正教徒

参照：世界の統計2007(総務省統計局)
：スロヴァキア共和国大使館ホームページ
<http://www.embassy-avenue.jp/slovakia/>

「これだけでは物足りない」とおっしゃる方のために、スロヴァキアとはどういう国なのか、そしてどのような歴史を背負った国なのか、教えてくれる本をご紹介します。

目で見える世界の国々 50 スロヴァキア

トム・ストライスグス著 大鷹 節子訳 国土社 1999

小学生の調べもののためのシリーズのうちの一冊。とはいえ、児童を対象にした本とは思えないほどの充実した内容で、写真や図版を豊富に用いてコンパクトにわかりやすく、スロヴァキアの国土や歴史、文化、経済を紹介してくれています。スロヴァキアを知るのに最適の入門書。

チェコとスロヴァキアを知るための56章

薩摩秀登編著 明石書店 2003

チェコとスロヴァキアを56章にわたって紹介した本。各章とも数ページでまとめられており、他の本では得られない情報(チェコとスロヴァキアのテレビ放送、現代アート、通貨のデザインについてなど)もあって、手軽にこの2つの国の様々な面を知ることができます。

読んで旅する世界の歴史と文化

中欧 ポーランド・チェコ・スロヴァキア・ハンガリー

沼野充義監修 新潮社 1996

取り上げられている4つの国は、20世紀の初めまではハプスブルク家の領土、すなわちオーストリア＝ハンガリー二重帝国の一部でした。ここには多くの民族が住んでおり、様々な文化が交錯した場でもあります。その多様性を様々な切り口で教えてくれるのがこの本。歴史から民族問題、芸術、さらには料理やお酒まで、圧倒的な情報量でこの「中欧」を紹介していて読みごたえがあります。

ちなみに、スロヴァキアでおすすめのお酒はブラム(ブルーン)の蒸留酒「スリヴォヴィツァ」というもので、「店で売っている薄く色の残ったものではなく、自家製で無色透明の二日酔いなど絶対にしない自然のものが最高」(p.305)とのこと。

スロヴァキアの人と風景

雄大に流れるドナウ河、マリア・テレジアゆかりのブラティスラヴァ城、中世から変わらぬ姿を保ち続けてきた数々の教会や旧市街…。面積は日本の約 8 分の 1 程度の小さな国に、宝物のような美しい風景がつまっています。なかでも首都ブラティスラヴァは、古き良きヨーロッパの香りを色濃く残し、街ぜんたいが観光名所、まるでテーマパークのような魅力に溢れています。

チェコスロヴァキアめぐり カレル・チャペック旅行記コレクション

カレル・チャペック著 飯島周編訳 筑摩書房 2007

チャペックが故郷チェコスロヴァキア各地の情景について自身のイラストを交えて描いたエッセイ集。スロヴァキアについての文章は決して多くはありませんが、豊かな自然や美しい城などへの愛情が感じられます。

展覧会に出品されています！ カレル・チャペックの本

- ・ヨゼフ・チャペック画『長い長いお医者さんの話』(31 - 5 ~ 8、67、119)
- ・同「郵便配達の話」『日本小国民文庫 15 世界名作選(二)』収録(116)
- ・同『チャペック童話集 王女様と小猫の話』(117)
- ・同「犬と妖精の話・小鳥と天使と卵の話」『新日本少年少女文庫 15 西洋文学選』収録(118)
- ・カレル・チャペック文・写真『ダーシェンカまたは子犬の生活』(88)
- ・同原作・写真『だあしゑんか仔犬の生ひ立ち』(115)

エステルゴムの春風

持田鋼一郎著 新潮社 1995

歌人で旅行作家の著者が、街や人々を知りたいと願って東欧諸国を旅した取材旅行記。1993年の分離独立直前、チェコ人とスロヴァキア人の対立が激しいブラティスラヴァを訪れた「ブラティスラバ、事もなし」ほか、24章にわたり各土地での出会いや交流を描いています。表題の章ではスロヴァキアのドナウ対岸、ハンガリーの昔の首都エステルゴムでの心温まるエピソードが綴られています。

過去と未来の国々 中国と東欧

開高健著 岩波書店 1991

1960年、30歳の著者が初めて海外に出たときの記録です。スロヴァキアでは現地の批評家と文学談義を交わしたり安保闘争について鋭い追求を受けて苦しんだり…当時の社会主義諸国の表情が、現地の人々との交流を通して描かれています。

世界ゆったりトラム = 旅物語

秋山芳弘ほか文・写真 東京書籍 2002

現在の日本では数えるほどに減ってしまった路面電車ですが、世界を見渡すとまだまだ沢山の路面電車、トラムが走っています。鉄道関係の著書を多数執筆している6人の鉄道好きによるフォト・エッセイです。

ブラティスラヴァ(本文中では「ブラチスラヴァ」)を旅したのは高校教師で旅行作家の野田隆氏。地下鉄などの無いブラティスラヴァではトラムが市民の重要な足となっており、旧市街の風景に溶け込んでいます。

世界途中下車の旅

櫻井寛著 PHP研究所 2003

車窓からの眺望を楽しみ、途中駅のホームで駅弁を買う...超多忙な時代だからこそ気ままな途中下車を提唱する著者が、世界中の鉄道で途中下車の旅をする本。ブダペストからプラハに向かう途中、ブラティスラヴァで途中下車。あまり楽しい思い出ではなかったようです。

写真紀行ロマンティック街道物語 遥かなるドナウの流れ

三輪晃久著 グラフィック社 1997

中世の面影を今もとどめるロマンティック街道をあちこちと、車の走行距離にして18000キロに及ぶ旅をして、写真と文章でまとめた本。ドナウ河越しに眺めるブラティスラヴァ城と町の美しい写真が掲載されています。

チェコスロヴァキアの民族衣装

石山彰監修 恒文社 1983

レースや刺繍、カラフルな色彩が美しいチェコスロヴァキアの民族衣装。チェコとスロヴァキアの違いだけでなく、地方によって実にバラエティーに富んでいます。現地のカメラマンと執筆者による解説。

チェコスロヴァキアの民族衣装 技法調査を中心に

中嶋朝子ほか共著 源流社 1987

現地の各博物館での取材と、日本の国立民族学博物館所蔵の衣装をもとに、地方ごとのデザインの違いや、素材や製作技法にいたるまで、詳細に研究した資料。一部の衣装については寸法まで入った解説図もあるので、見ながら実際に作ることもできそうです。

～ スロヴァキアの世界遺産 ～

ヴルコリニェツ Vlkolinec

18世紀の入母屋造りの木造家屋が45戸、山の中に保存されています。言わば白川郷・五箇山のスロヴァキア版。

バンスカー・シュティアヴニツァ Banská Štiavnica

バンスカーはスロヴァキア語で「鉱山」の意。古くから銅や銀の採掘で発展してきた歴史的な町並みと、トルコ軍の侵攻に備えて建設された城や、クリンガー貯水池など鉱山の名残が見られます。

スピシュキー・ヒラットと周辺の文化財 Spišsky Hrad and its Associated Cultural Monuments

中央ヨーロッパでは最大級の城の一つ、ロマネスク・ゴシック様式のスピシュ城をはじめ、聖堂や教会などが美しい町並みをつくっています。

アグテレック・カルストとスロヴァキア・カルストの鍾乳洞群 Caves of Aggtelek Karst and Slovak Karst

ハンガリーとの国境にまたがる範囲に700以上もの洞窟が広がっています。中でもバルドゥラードミツァ洞窟は全長25km、ヨーロッパで最も大きい洞窟とされています。

バルデヨフ市街保全地区 Bardejov Town Conservation Reserve

城壁と砦に囲まれた小さな要塞都市。中世の面影そのままの町並みや要塞のほか、ユダヤ人街区の中のシナゴーク(ユダヤ教の礼拝堂)も印象的です。

<参考> 『世界遺産事典 - 812 全物件プロフィール - 2006 改訂版』世界遺産総合研究所編 シンクタンクせとうち総合研究機構 2006
『地球の歩き方 チェコ/ポーランド/スロヴァキア 2006～2007 年版』ダイヤモンド・ビッグ社 2006

スロヴァキアの20世紀

様々な変遷をくりかえし、1993年1月1日の「ビロード離婚」によって独立国となったスロヴァキア共和国。そんなスロヴァキアの歴史を教えてくれる本をご紹介します。

図説チェコとスロヴァキア

薩摩秀登著 河出書房新社 2006

1989年の民主化「ビロード革命」や、1993年の2国分離「ビロード離婚」といった大きな変革を無血で成し遂げてきた現在のチェコとスロヴァキア。この本は、カラーの写真や図版を多く用いて、古代から現代まで、歴史を追いながらこの2つの国を紹介しています。チェコビールについてのコラムや、両国の主要都市の紹介などもあり、親しみやすくこの2つの国を教えてください。

中欧の分裂と統合 マサリクとチェコスロヴァキア建国

林忠行著 中央公論社 1993

1918年のオーストリア＝ハンガリー二重帝国の崩壊により独立国家となったチェコスロヴァキア。その初代大統領になったのがT.G.マサリク(1850-1937)でした。そのマサリクの生涯を追いながら、20世紀前半の混迷する東欧においてどのようにしてチェコスロヴァキアという国が形づくられていったかを教えてください。それと同時に、現在のスロヴァキアではマサリクがチェコによるスロヴァキア支配のシンボルのようにみられていることにも触れており、今日的な問題意識をもってつづられている本です。

*関連書籍『マサリクとの対話』カレル・チャペック著 石川達夫訳 成文社、1993

証言ブラハの春

A.ドブチェク述 熊田亨訳 岩波書店 1991

A.ドブチェク(1921-1992)は、1968年の改革「ブラハの春」を主導した当時の共産党第一書記でスロヴァキア出身。「ブラハの春」はやがてソ連軍を中心とするワルシャワ条約機構軍によるチェコスロヴァキア占領という結果をまねき、以後ドブチェクは共産党政権下では政治の表舞台に姿を見せることはありませんでした。後年ブダペストの放送局によってなされたこのインタビューからは、「ブラハの春」当時の緊迫した模様を知ることができます。なお、ドブチェクが政界に振り返ることになる1989年の「ビロード革命」は、このインタビューの7ヶ月後です。

ジプシー・ミュージックの真実 ロマ・フィールド・レポート

関口義人著 青土社 2005

スロヴァキアには多くの民族があり、民族問題は現在でも大きな政治的テーマです。ロマ(ジプシー)もそうした民族のひとつ。この本は音楽をよりどころとして、ロマの起源とされるインドからはじまり、ヨーロッパ各地のロマの生活を紹介してくれています。スロヴァキアのロマについてはあまり多くのページが割かれてはいませんが、それでもこの国のロマが歴史的に虐げられてきたことと同時に、現在のロマをとりまく社会的・政治的状況などを教えてください。

スロヴァキアと音楽

スロヴァキアには、例えばウィーンでベートーヴェンと並び称されたピアニストである J. N. フンメル (1778 - 1837) を輩出したり、シューベルトがエステルハージ家の音楽の家庭教師としてジェリエゾフツェに赴任したりと、クラシック音楽の豊かな土壌がありました。現在でも芸術大学などの教育機関や世界的に活躍している国立オーケストラを擁し、多くの音楽家を世界に送り出しています。それにもましてスロヴァキアの音楽を特徴付けているのが、民族音楽です。ロマ (ジプシー) や農民たちが伝えてきた音楽は、バルトークやコダーイといったクラシックの作曲家の心を捉えるほど魅力的なものです。

チェコ、スロヴァキア、ハンガリー、ポーランド

ガイドブック音楽と美術の旅 音楽之友社編集 音楽之友社 1995

4カ国を美術や音楽を中心に紹介したガイドブック。美術館や音楽家の記念館のみならず、教会や宮殿、歴史的な名所などもアクセス情報や利用案内とともに掲載されているので旅行ガイドとしても遜色ありません。コラムも充実していて読むだけでも楽しめます。

バルトークの世界 自伝・民俗音楽・現代音楽論

ベラ・バルトーク著 岩城肇訳 講談社 1976

作曲家バルトーク (1881-1945) の文章をあつめたもの。バルトークは、1893年から1903年の間を音楽の勉強のためブラティスラヴァ (当時はハンガリー語でポジョニユとよばれていた) で過ごしています。その後世界的な音楽家への道を歩んでゆくバルトークですが、その彼がつねに重視していたのが東欧の民族音楽でした。バルトークはハンガリーやルーマニアなどの農民から直接民謡をききとり、採譜したり録音したりして記録し分析していますが、そのなかにはスロヴァキアのものも含まれます。ここに収録されているのがそのレポート。400曲もの民謡をそらで歌ってみせる農婦が登場し、バルトークを驚かせています。

ハンガリーの農民たちの間では、百曲近くの歌のレパートリーを持っているような農民を見つけることは全くまれなことです。スロヴァキアの農民たちの間では、たった一人の農民から、といってもたいていは農婦ですが、百五十曲から二百曲もの曲が採譜できることなどは全く普通のことです。つまり、スロヴァキアは、民俗音楽の実に豊かな産地なのです。 (p.149)

うぐいすとバラ エディタ・グルペローヴァ、半生のドラマとその芸術

ニール・リショイ著 久保敦彦訳 音楽之友社 1999

スロヴァキア出身のソプラノ歌手エディタ・グルペローヴァの評伝。著者ニール・リショイはグルペローヴァとの直接のやりとりから多くの言葉を得ており、グルペローヴァがいかに強い意志をもって歌ってきたかが伝わってくる本です。その一方で、彼女が、国外へ移住せざるをえないほど体制化のチェコスロヴァキアで苦しみ、複雑な祖国への思いを抱いていたことまでも教えてくれます。

スロヴァキアと降矢なな

絵本作家として活躍する^{ふりや}降矢ななは、スロヴァキアで生活して15年になります。ブラティスラヴァ美術大学で石版画を学び、スロヴァキア人で画家の男性と結婚。現在、7歳のお嬢さんとともに暮らしています。ここでは、図書館がおすすめする降矢ななの絵本を紹介します。

展覧会に出品されています！ 降矢ななの原画

・内田麟太郎文『ありがとうともだち』(27)

ともだちや

内田麟太郎作 降矢なな絵 偕成社 1998

のぼりを ふりふり キツネがやってきます。「えー、ともだちやです。ともだちは いりませんか。さびしい ひとは いませんか。ともだち いちじかん ひゃくえん。ともだち にじかん にひゃくえん」
ともだちやって なんでしょう？しょくじを いっしょに することでしょうか。それとも、トランプの あいてをすること？もりいちばんの さびしんぼうに ほんとうのともだちが できるまでの おはなしです。

たびにでよう

降矢なな作 童心社 1992

たびにでよう たびにでよう リュックをせおって あるいていこう はたけのむこう もりのむこう みちのむこうは しらないせかい
りんごを食べると耳が大きくなって音が聞こえたり、いちごをつまむと鼻がのびて鳥がとまったり...これはなんだかおもしろいたびにになりそうぞ。

ねえ どっちがすき？

安江りえ作 降矢なな絵 福音館書店 1992

ねえどっちがすき？そらまでとどきそうな ぶうーらん ぶーらん ぶらんこと しゅうーすとん すべりだい。
ねえどっちがすき？じーじーやける ウィンナと じゅう じゅうハンバーグ。どっちも だいすき！いっしょに たべよ！

めっきらもっきらどおんどん

長谷川摂子作 降矢なな絵 福音館書店 1990

だれも あそぶともだちのいない なつのあるひ。かந்தは ふしぎな三にんぐみと とてもたのしく あそんだんだ。その三にんとは「もんもんびゃっこ」と「しっかかもかか」と「おたからまんちん」。どうして かந்தが この三にんに あえたのかというと、かந்தが こんなうたを うたったからだ。
「ちんぶく まんぶく あっぺらこの きんぴらこ じょんがら びこたこ めっきらもっきらどおんどん」

スロヴァキアと文学

小さな国ながら分割や統合を繰り返してきたスロヴァキア。山地が多く農業がさかんな穏やかな風土とめまぐるしく変わる政治。二つの側面を持つ国の特徴が文学にもあらわれています。

時間と分

アルフォンス・ベドナール著 栗栖継訳 恒文社 1978

1914年生まれのスロヴァキア人、ベドナールが書いたスロヴァキア国民蜂起と第2次世界大戦後のスターリン体制を題材にした小説。スターリン批判の内容から1956年の発表後すぐに禁書となり復刊したのは8年後のことでした。もともと6編の中編小説の連作集ですが、本書にはそのうちの3編（「揺籃」「時間と分」「建ちかけの家」）が収められています。

この世の美しきものすべて

ヤロスラフ・サイフェルト著 飯島周、関根日出男共訳 恒文社 1998

1984年にチェコで初めてのノーベル文学賞を受賞した国民的詩人サイフェルトの回想記。チェコスロヴァキアの波乱に富んだ20世紀を生きてきた詩人の生涯がみずみずしい文体で書かれています。舞台のほとんどはサイフェルトの故郷ブラハですが600人を超す登場人物の中にはスロヴァキアの詩人も多数含まれています。

チェコの作家たちがまだ祖国の草原をあてもなくさ迷っていた頃、つまり組織されていたといっても、チェコ作家組合のメンバーというだけであり、その組織もあまりにも漠然としていて、何らかの戦闘的行動を起こすには程遠いものだったからだが、そうした頃、スロヴァキアの作家たちはソ連の例にならい、西スロヴァキアのトレンチャンスケ・テプリツェ温泉での会議を招集した。その目的は、自分たちの芸術的政治的計画と団結、最後に同業組合への参加を宣言するにあった。（pp.323-324）

展覧会に出品されています！ サイフェルトの本

・カレル・スヴォリンスキー画『魔法のランタン』（80）

ポケットのなかの東欧文学 ルネッサンスから現代まで

飯島周、小原雅俊編 成文社 2006

ポーランドやチェコなど10カ国49人の詩、小説、エッセイを集めたアンソロジー。スロヴァキア作品はミルカ・ジムコヴァーの短編「天国への入場券」とバヴォル・ランコウの短編「花を売る娘」が収録されています。

* 関連書籍『文学の贈物 東中欧文学アンソロジー』小原雅俊編 未知谷 2000

（「マグダレーンカとヴァヴリネツじいさん」ヨゼフ・ツィーゲル・フロンスキー著、「白犬伝」ルドルフ・スロボダ著 収録）

現代東欧詩集 世界現代詩文庫 15

つかだみちこ編・訳 土曜美術社 1989

7カ国の現代詩を集めたもの。スロヴァキアはミロスラウ・ヴァーレク（1969年から20年間文部大臣を務めた）など「一九五〇年代前半の「スターリン時代」の過剰な政治主義へのリアクションとして、内外の叙情詩の伝統を受け継ぎ、現実世界を叙情的主体のフィルターを通して捉えようとした世代に属する」（p.198）13人の詩人が紹介されています。

東欧怪談集

沼野充義編 河出書房新社 1994

9カ国26編のアンソロジー。スロヴァキアは3作品が収録されています。「西方的な洗練された形式と、東方的などろどろした混沌のあわい」(編者あとがきより p.423)を感じさせる幻想的な作品集。古典的傑作さえなかなか日本では翻訳がでない地域の趣味的な作品を原語から直接訳すことにこだわっています。

*関連書籍『吸血鬼伝承「生ける死体」の民俗学』平賀英一郎著 中央公論新社 2000

チェコスロバキアの民話

大竹國弘編・訳 恒文社 1980

カレル・ヤロミール・エルベンとボジェナ・ニェムツォヴァーの作品を中心とした民話集。1820年ウィーン生まれのニェムツォヴァーは結婚を機にチェコに移り住みました。その後夫の仕事の関係でチェコやスロヴァキア、ハンガリーを転々としたためスロヴァキアが舞台の作品が多数あります。

「羊飼いと龍」「老犬と狼」といった題名からも分かるとおり山村をテーマにした民話を中心です。

*関連書籍『おばあさん』ボジェナ・ニェムツォヴァー著 栗栖 継訳 岩波書店 1971

展覧会に出品されています！ ニェムツォヴァーの本

- ・ヨゼフ・ラダ画『民話』(30-1~8、54)
- ・アドルフ・カシュパル画『おばあさん』(37)

さいたま市図書館のご案内

- ・ 資料を借りる際には図書館利用者カードが必要です。市内在住・在勤・在学の方、および相互利用協定を結んでいる市町村(上尾市、伊奈町、戸田市、蕨市、川口市、春日部市、蓮田市、川越市)に在住の方ならどなたでもカードをお作りいただけます。住所の確認できるものをご持参ください。なお、館内での利用の場合は不要です。
- ・ 資料の貸出はおひとり各館10点まで、2週間です。
- ・ 図書館によって休館日、開館時間が異なります。ご利用の前にご確認ください。
- ・ 館内OPAC(資料検索端末)やインターネットからでも予約・取り寄せができます。ご希望の方にはパスワードを発行しておりますので、図書館窓口にお申し出ください。

図書館でのおはなし会のご案内

さいたま市図書館では定期的に幼児・児童を対象とするおはなし会を開催しています。

特に記述のない限りは無料・申し込み不要です。お気軽におこしください。

夏休み期間中は休止したり、特別プログラムを開催したりする場合があります。

詳しくは各館にお問い合わせください。

北浦和図書館(832-2321)

おはなし会 毎週水曜日 午後3時から 対象：幼児・小学生（親子可）

*平成19年11月より、午後3時30分から に変わります

えほんのじかん 毎週日曜日 午前11時から 対象：誰でも可

北浦和図書館東高砂分館(885-9983) *9月2日に閉館します。

おはなし会 毎週木曜日 午後4時から 対象：幼児・小学生（親子可）

プチおはなし会 毎週土曜日 午前11時から 対象：幼児・小学生（親子可）

南浦和図書館(862-8568)

おはなし会 毎週木曜日 午後3時から 対象：幼児（第1・3週の回のみ親子可）

午後4時から 対象：小学生

おやこおはなし会 毎月第2土曜日 午前11時から 対象：幼児・小学生と大人

東浦和図書館(875-9977)

おはなし会 毎週木曜日 午後3時30分から 対象：3歳以上（親子可）

どんぐりおはなし会 毎月第4土曜日 午前11時30分から 対象：幼児・小学生（親子可）

桜図書館(858-9090)

おはなし会 毎週水曜日 午後3時30分から 対象：幼児・小学生（親子可）

「さくらんぼ」のおはなし会 毎月第1・3土曜日 午後2時30分から 対象：小学生・一人でおはなしが聞ける子

桜図書館大久保東分館(853-7100)

おはなしの会 毎週木曜日 午後4時から 対象：幼児・小学生（親子可）

大宮図書館(643-3701)

おはなし会 毎週水曜日 午後3時30分から 対象：3歳～（親子可）

大宮西部図書館(664-4946)

おはなし会 毎週水曜日 午後3時30分から 対象：3歳～

大宮西部図書館三橋分館(625-4319)

絵本の読み聞かせ 毎週木曜日 午前10時30分から 対象：3歳～（3歳未満の子は保護者同伴可）

宮原図書館(662-5401)

おはなし会 毎月第3土曜日 午後2時から 対象：幼児・小学生（親子可）

馬宮図書館(625-8831)

おはなしスクランブル in 馬宮 偶数月第3水曜日 午後3時から 対象：幼児と親 *事前申込が必要です

春野図書館(687-8301)

おはなし会 毎月第3木曜日 5月 - 10月：午後3時45分から

11月 - 4月：午後3時30分から

対象：幼児・小学生（親子可）

大宮東図書館(688-1434)

えほんの会 毎月第2・4木曜日 午後2時30分から 対象：幼児・小学生（親子可）

おはなし会 毎月第3土曜日 午後2時30分から 対象：幼児・小学生（親子可）

七里図書館(682-3248)

おはなし会 毎月第2・4水曜日 午後3時30分から 対象：幼児

午後4時から 対象：小学生

片柳図書館(682-1222)

おはなし会 毎月第1・3水曜日 午後4時から 対象：幼児・小学生（親子可）

与野図書館(853-7816)

おはなしこども会 毎月第2・4水曜日 午後4時から 対象：幼児・小学生

与野図書館西分館(854-8636)

紙芝居ひろば 毎月第3土曜日 午前11時から 対象：3歳～小学生（親子可）

与野南図書館(855-3735)

えほんの会 毎月第3水曜日 午後3時から 対象：幼児・小学生（親子可）

岩槻図書館(757-2523)

ちいさなおはなし会 毎月第3木曜日 午前11時から 対象：幼児（親子可）

岩槻東部図書館(756-6665)

親と子のふれあいおはなし会 毎月第3木曜日 午前11時から 対象：幼児（親子可）

ブラティスラヴァ世界絵本原画展

絵本の読み聞かせ会

さいたま市図書館の職員が、普段は図書館でおこなっている「おはなし会」を美術館に「出前」します。

日時：7月22日以降の毎水・日曜日 午前11時～11時30分

対象：小学生 場所：ギャラリーB

無料、事前申込み不要

詳しくは・・・

うらわ美術館

住所：〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町2-5-1 浦和センチュリーシティ3F

電話：048-827-3215 <http://www.uam.urawa.saitama.jp/>

平成19年7月

編集・発行

さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/>